

第2回 学研高山地区第2工区まちづくり検討会会議録

日 時 令和元年12月4日（水） 午後2時から4時

場 所 生駒市コミュニティセンター4階 402会議室

出席者（敬称略）

（参加者）菅万希子、増田 昇、松中亮治、村橋正武、稲山一八、久保幸作、
森田起一、垣内喜代三、久保昌城、中田建彦、中川雅永、山本 昇、
黒部 實、西向和幸

（欠席者）佐藤由美、白川久一

（事務局）北田都市整備部長、有山都市計画課長、秦都市計画課学研推進室長
矢島学研推進室主幹、上野学研推進係員、松下学研推進係員、
岡田学研推進係員

会議の公開・非公開の別 公開

傍聴者数 6人

案 件

1. 第1回学研高山地区第2工区まちづくり意向調査集計について
2. 学研高山地区第2工区の骨格道路について
3. 造成の考え方等について
4. その他

配付資料

資料1 「第1回学研高山地区第2工区まちづくり意向調査集計（10/31時点）」

資料2 「学研高山地区第2工区の骨格道路について」

資料3 「造成の考え方等について」

参考資料 「まちづくり検討の進め方」

開 会

座長挨拶

- ・今回は「意向調査集計」「骨格道路」「造成の考え方」の3つのテーマについて、ご意見、ご質問をいただきたいと思います。

意見交換の内容

案件1. 第1回学研高山地区第2工区まちづくり意向調査集計について

事務局より資料1について説明

その後、参加者による意見交換が行われる。

座 長

- ・意向調査集計については回収期日を延長した為、今後若干集計値が変動するが、現時点での意向調査集計結果についてご意見、ご感想をいただきたい。

参加者（黒部氏）

- ・意向調査の回答数が少ないと思うが、回答しない方について、事務局としてどう考えているのか。

事務局

- ・案内文書を出して回答を促している状況。
- ・意向調査の回答を出さない理由は判断しかねるが、単に返信を忘れているのか、同じ世帯に複数の地権者がいる場合は、個々に返信せずに、世帯で意見を集約して出している可能性もある。地権者の会の会員が地権者全体の6割を占めていることもあるので、なにか意思があるというよりは返信忘れが多分にあると考えている。

参加者（山本氏）

- ・今回の意向調査では、未提出者を把握できているのか。

事務局

- ・今回の意向調査では、記名を任意としており、記名している方もいれば、無記名の方もいる。現時点では、未提出者の集計までは行っていない。

参加者（増田氏）

- ・次回に最終報告を行うとのことだが、クロス集計を行うのか。例えば、問9「土地を所有した理由」と、問11の「今後の土地活用についての意向」等のクロス集計があれば、土地利用の検討の手掛かりになると考える。
- ・円グラフには構成比が記載されているが、表には実数しか記載されていないので、一目で分かるよう実数と構成比を併せて表記してほしい。

事務局

- ・次回、土地利用の検討につながるようなクロス集計を行う予定をしている。
- ・表にも構成比を表記して次回提示する。

参加者（菅氏）

- ・今回の意向調査について、記名を任意としているようだが、記名式か無記名式かを明確にした方が良いのでは。
- ・無記名式と記名式の意向調査では回答傾向に差があるかもしれない。無記名式と記名式の両方の調査を行うことも良いのでは。

事務局

- ・今回は第1回目の調査である。今回の結果を踏まえ、今後は記名式・無記名式の形式について検討した上で実施したい。

参加者（黒部氏）

- ・円グラフはどのような順で配色しているのか。

事務局

- ・選択肢順で配色している。

座 長

- ・事務局には、資料作成の際にはわかりやすい表現の仕方を工夫していただきたい。

案件2．学研高山地区第2工区の骨格道路について

案件3．造成の考え方等について

事務局より資料2、資料3について一括説明。

その後、参加者による意見交換が行われる。

座 長

- ・資料2の骨格道路について、地権者の会から多くのご意見を賜わっている。地権者の会より本日ご参加いただいている久保氏、森田氏から資料の中の「地権者の会での意見」について補足やその他ご意見等あれば伺いたい。

参加者（久保幸作氏）

- ・高山東西線は市道、高山南北線は県道となるのか。
- ・高山東西線や高山南北線は骨格道路であり、人間の体で例えるならば大動脈であると考えます。
- ・資料の中の「地権者の会での意見」にもあったが、周辺地域との連携という面で、高山南北線は第二京阪道路を見据え枚方大和郡山線に接続してほしい。
- ・高山東西線に関しては、周辺クラスターである北田原地区と連携できるよう、枚方大和郡山線を越えて西側の国道163号バイパスと繋ぐ計画としてほしい。

事務局

- ・高山東西線や高山南北線について、市道か県道かについては未定。

参加者（森田氏）

- ・高山東西線、高山南北線、高山北廻り線の3路線については、いずれも重要道路であると考えます。地権者の会の意見としては、資料に記載されている「地権者の会での意見」のとおりである。

参加者（西向氏）

- ・高山南北線については起終点が逆ではないか。また南側は国道163号までではないのか。

事務局

- ・起点を第1工区と第2工区との間の芝庄田線北端とし、終点を北側の枚方大和郡山線と表現している。

参加者（松中氏）

- ・高山東西線については、途切れている精華大通り線と接続することが非常に重要だと考えている。
- ・高山南北線に関しては、起点が芝庄田線ということになっているが、芝庄田線の南側で国道163号と交差し、さらにその先で学研北生駒駅への補完ルートと接続することになる。国道163号との交差点において、信号周期を変えてもらうことは困難

であると思うので、交通容量が確保できるかどうか問題。

- ・高山南北線の重要なポイントとして、学研北生駒駅へのアクセスがいかにスムーズに出来るかという点が挙げられる。自家用車というよりは、公共交通バス等によるアクセスを想定すると、大型車両が走行できるような構造が必要になるのではないかな。

参加者（稲山氏）

- ・高山南北線については、現行の都市計画道路を変更し、先端大の前にある芝庄田線に接続するという考えであるのか。

事務局

- ・有識者懇談会とりまとめや地権者の会での意見を踏まえ、現行の都市計画を変更し、現道である先端大学前の芝庄田線に接続するという考えである。

座 長

- ・「骨格道路のネットワークのあり方」と「造成の考え方等」については非常に関係があるので合わせて議論出来ればと思う。ご意見ある方いらっしゃいますか。

参加者（山本氏）

- ・有識者懇談会でもご意見があったように、高山東西線と精華大通り線を接続し、精華・西木津地区と連携を図ることが非常に重要であると考えている。また、道路の接続について先端大学からも強い要望がある。地形上かなり高低差はあるが、きちっと接続する計画をしておく必要があるのではないかと考える。
- ・資料2では高山東西線だけでなく、高山北廻り線も枚方大和郡山線とつなぐということになるが、2本とも繋げるのかどうか。両方整備するとなれば、交通量推計にもよるが幅員の設定にも大きく関係する。
- ・国道163号と平面交差する箇所は、先端大学前の道路である芝庄田線との交差点と、北田原工業団地（北田原テクノエリア）の中にある道路との交差点の計2箇所となっている。北田原工業団地（北田原テクノエリア）の中まで延伸させるのが一番良いと思うが、その場合、精華大通り線から高山東西線を通り真っ直ぐな道路ができる為、通過交通の多い道路になってしまい、根本的に道路の考え方が変わってしまう可能性があるのでは。

参加者（松中氏）

- ・高山東西線と接続する精華大通り線は、現状4車線から2車線に絞られている。仮

に、精華大通り線から4車線で、枚方大和郡山線を越え、北田原工業団地（北田原テクノエリア）の中の国道163号まで伸びると幹線道路になるため、それ相応の整備が必要という考えになる。しかし、通過交通を処理する道路ではないと考えるとまた変わってくるのでは。

- ・高山東西線を幹線道路として扱うというのは、若干疑問がある。すぐ南に国道163号があるので、幹線道路の役割は国道163号が担うと考えれば、通過交通があまり通らないようなネットワークとすることも合理的ではないか。
- ・第2工区内外における接続道路の考え方について、生駒市以外の関係する市町、京都府との連携及び合意を図ることも重要になってくる。

参加者（山本氏）

- ・精華大通り線を走る連節バスについて、学研北生駒駅に繋ぐのか、学研奈良登美ヶ丘駅に繋ぐのか、また、それに伴いロータリーは走行できるのか等配慮する必要があると思う。

座 長

- ・精華大通り線と高山東西線を繋ぐという考えは、学研都市全体から見た場合、どのように考えられるか。中川氏から意見を伺いたい。

参加者（中川氏）

- ・精華大通り線の幅員は50mでシンボル性が高く、交通量とはリンクしていない。京都の歴史に関連して、昔の牛車の通る道をモチーフにしたようなしつらえ等、景観的な意味合いが大きい。
- ・第2工区と精華・西木津地区をどのような位置づけで結ぶかと考えると、松中氏が述べたように、国道163号は幹線道路として位置づけられ、現在、バイパス整備が進められているので、高山東西線は通過交通の多い道路ではなく、国道163号とは違う性格の道路にすべきだと考える。

座 長

- ・高山東西線はどのようなイメージの道路が良いか議論しておきたい。

参加者（稲山氏）

- ・高山東西線は第2工区と精華・西木津地区との連絡道路という役割が一番大きいと考える。また、物流系トラックが多く通る道路ではないと思う。以前からその考えがあって、精華大通り線は4車線で、その西側の大通り西線で2車線になっている

のでは。

- ・第2工区と精華・西木津地区を接続することで、先端大学も生きてくる。また、精華・西木津地区の各研究施設等も生きてくる。高山東西線はそのような役割ではないか。

座 長

- ・第2工区と精華・西木津地区を結ぶというということが大命題であり、幹線的な道路の役割は国道163号が担い、高山東西線は精華大通り線の性格であるシンボリックな意味合いを引き継ぐのではなく、2車線程度で地域に馴染む道路の性格であると考えたら良いのではないか。

参加者（稲山氏）

- ・精華大通り線西側の大通り西線は2車線であるが、4車線に拡幅できないのか。

参加者（中川氏）

- ・民家が張り付いて建ち並んでいるので4車線化は現実的には困難である。

座 長

- ・先ほど山本氏から提起していただいた、西側の枚方大和郡山線と接続する高山北廻り線と高山東西線の2つのルートについて、2ルートとも必要かどうかも含め検討したい。また、一方で北田原工業団地（北田原テクノエリア）との結びつきや、ルートの位置づけ等について議論したい。
- ・事務局としてはどちらの比重が大きいと考えているのか。

事務局

- ・どちらかといえば高山東西線の方が重要であると考えている。
- ・高山北廻り線については、概ね現道拡幅により整備可能であると考えている。ただ、高山南北線東側から府道生駒精華線へは新設道路の整備が必要になってくる。また、市道美の原線を活用した場合には、京都府道との接点が歪な形になっているので更なる検討が必要になる。
- ・北田原工業団地（北田原テクノエリア）との接続については、どちらのルートが繋ぎやすいか等、一方で検討していかなければならないと考えている。
- ・土地利用の検討や交通量推計によっても大きく影響を受けると考えている。今回は、現時点での大きな考え方だけを示させていただいた。

参加者（増田氏）

- ・資料2の10ページ骨格道路図（案）では、どの道路に産業系の車や自家用車、公共交通のバス等が通るのが見えてこない。また、鉄道駅との繋がりとして、バスルートの視点で見た場合、この資料ではどうなるのかわからない。各路線が持つ意味や性格、どのような位置づけなのかわかりにくい。

座 長

- ・例えば、資料2の9ページでは高山北廻り線は、〈自然文化連携軸〉の名称が付いており、また、主に現道拡幅による整備としていることから、重交通を処理する道路ではなく、他の2つの道路とは性格が違うことが見て取れるように思ったが、まだ決めつけるのは早い。

参加者（増田氏）

- ・そのような道路の性格の違いを明示しておいた方が良くと思う。
- ・高山南北線や高山東西線については、交差点間で性格が変わるのではないかと。例えば、高山東西線は高山南北線の東側と西側で位置づけが同じなのかどうか。特に、高山南北線は、高山東西線から北側と南側の位置づけ、高山北廻り線から北側と南側の位置づけが違うと思う。路線ごとに一概に位置づけるのではなく、区間毎の性格について共通認識を持った方が将来的に分かりやすいのではないかと。

座 長

- ・本日は交通ネットワークとして、区域内の柱立てとなる骨格道路をどのように接続するかについてご意見をいただいた。区間毎の性格については非常に大事な点であるので、次回、きめ細かく表現してもらうことにする。

事務局

- ・今回は大きく路線毎に表現したが、今回は区間毎の性格について整理したものを資料としてお示ししたい。

参加者（稲山氏）

- ・高山北廻り線の学研高山地区第2工区から東側の道路はどのような状況か。

事務局

- ・区域外の現道（府道生駒精華線）は幅員が狭く、区域外の5差路（府道生駒精華線、府道生駒井手線、市道美の原線との交差点部）までは拡幅が必要となる。

参加者（稲山氏）

- ・高山東西線は東側では京都府の山手幹線に結びつく。一方、高山北廻り線は大型車

が通りにくいような道路につながる。このことを考えればおのずと方向性は決まってくるのではないか。

座 長

- ・道路の話もあるが、造成についても難しい課題がある。骨格道路の考え方として造成のイメージを今回の資料でまとめており、ご意見をいただきたい。

参加者（松中氏）

- ・資料3の8ページの骨格道路整備を踏まえた土地造成イメージについて、黄色の沿道整備エリアはある程度切り盛りをして宅地を整備し、緑色の現況地形活用エリアは切り盛りしないということか。

事務局

- ・沿道整備エリアは、道路を整備する際に、沿道の宅地を造りつつ切り盛りを行う範囲を示している。また、現況地形活用エリアについても切り盛りの可能性はある。

参加者（山本氏）

- ・現況地形活用エリアはグリーンで塗ってあるので、現況のまま置いておくように受け取ってしまうが、そうではないのか。
- ・以前の計画において、第1工区北側の谷については、山を削ることにより土を埋めて全体の土量バランスを図られていたが、この土地造成イメージでは土量バランスはとれているのか。

事務局

- ・グリーンの所は道路造成に影響されないエリアである。当然、造成することは可能であると考えます。
- ・ご指摘いただいた第1工区北側は深い谷であるため、このエリアだけの整備では土が足りず宅地化は出来ないため、他のエリアから土を持ってこなければならない。その他のエリアについては、エリア毎に概ねバランスをとっている。

座 長

- ・土量バランスを考えるには、二つの課題がある。一つは地区内で土量バランスをとるようにする。もう一つは先端大の北側の谷地だけ整備しようとしても、第2工区の然るべき所から土を持ってこないといけない。それ以外の地区に関しては、規模の設定を工夫すれば、一つの事業地区の中で土量バランスとコストダウンを図れるような整備方法を見つけられるという考え方か。

事務局

- ・そのとおりです。先端大学の北側の谷地については、土を入れていき最後に造成されるエリアになると思う。

参加者（松中氏）

- ・先端大の北側の土地を、最後に土を埋めて造成するということが、一番土地を利用したい場所である。当該地は、最後に整備を行うということなのか、あるいは、土を埋めて道路を整備した後、更に段階的な整備を行うということなのか。

事務局

- ・段階的整備というのは有識者懇談会でも意見があった通り、エリアを区切りながら整備するという意味合い。
- ・切土した土をこの谷に入れながら整備していくため、手順によっては必ず最後になるというものではない。

参加者（増田氏）

- ・おそらく芝庄田線を北側へ延伸し、高山東西線までの区間と、精華・西木津地区を結ぶ高山東西線が先行整備されることになると思うが、その道路整備と造成計画は本当に一体化しているのかどうか。
- ・第1工区との連携を想定すると、最初から一定の土を埋めていき、高山南北線の高山東西線までの区間と、その交差点から高山東西線の東側の区間を先行整備し、開発が誘導されていくと考えるのが普通だと思うが、造成計画と整合するような方針がとられているのか。

事務局

- ・ご指摘の点は、我々も危惧している。高山東西線のルートをどの高さで、また、南北のどの位置を通すのかによって大きく影響してくる。あまりに南に下げると、深い谷に大規模な盛土をしなければ道路整備が困難な区間になるので、谷に土を入れるかどうかに関わらず、道路整備ができる位置を想定している。

参加者（増田氏）

- ・高さを変更できないガス高圧導管が通っている近くに高山南北線と高山東西線の交差点ができ、自ずとその高さが決まってくるはずである。更に、必然的に道路の高さも決まってくるはずである。そのような前提で土地造成イメージを作成してい

るのか。

事務局

- ・現案での交差点の高さと、ネックとなるガス道の高さを考慮した上で作成している。

参加者（増田氏）

- ・第1工区の芝庄田線との接続や、ガス高圧導管の高さ等により、今後整備する道路の高さが必然的に設定され、それに伴い宅盤の高さも決まってくる。そのようなクリティカルな要素を明示した方が良いと思う。今回の資料は原則的な考え方であるため議論の余地がない。クリティカルな要素があり、必然的に決まるものがある、そこからスタートしていると明らかにした方が良いのかもしれない。

事務局

- ・制約条件等を整理し、ネックポイントとなる高さ等の要素についても示しながら進めていきたいと思う。

参加者（松中氏）

- ・横断面等、高さの分かる資料も出していただきたい。

参加者（中川氏）

- ・0次ベースとして地形や水系、既存施設などの条件、1次ベースとして鉄塔やガス高圧導管など移設しにくいような特殊条件が考えられる。更に、2次ベースはまちづくり論として、経済性や近年大きな問題となっている災害に対する視点、加えて、段階的な造成の方法など様々なファクターが積み重なっていく。最終的には地権者にご理解いただくための整理が必要になると思う。

参加者（増田氏）

- ・縦断勾配の設定により、可処分宅地がどのように増減するか等のシミュレーションを行い、それを基に議論を進めれば良いのでは。

座 長

- ・横断面図や縦断勾配等によってどのような造成になるのか、目に見える議論の材料を用意していただきたい。

事務局

- ・本日は基本的な考え方を提示させていただいた。次回は、本日のご意見を踏まえ、提示したい。

座 長

- ・地権者の会のお二方ご理解いただけただけでしょうか。

参加者（久保幸作氏）

- ・地権者としてはどの地区に誰の土地があるのか、どういう意向があるのか、換地する際に地権者の同意が得られるかを懸念している。
- ・第1工区北側の深い谷に関しては、例えば国立国会図書館のように、谷を地下として利用した建物の建設等、いかに有効利用できるかを考えるのも一つだと思う。

座 長

- ・今後、道路や造成の議論をするときに、課題や視点の整理を色々な角度から行い、視点をどこに置くか、また、どのように進めていくか、議論をするべきリストのよなものの提示を事務局にはお願いしたい。

参加者（森田氏）

- ・検討会で専門的な意見をいただいて、それを基に案を作成し、その案を地権者の会で説明してもらい、議論してはどうか。
- ・現在の都市計画は決定されてから大分時間が経っている。当時の住宅開発を基にした道路計画で、県や市の決定権者や幅員などが設定されているが、幅員についてはこれから変更できるのか。

事務局

- ・幅員については、交通量推計等により決定することになる。

参加者（森田氏）

- ・幅員や道路の機能など地権者の会でも議論できるようお願いしたい。

参加者（久保幸作氏）

- ・アンケートで個人の所有面積がわかれば、ゾーニングの広さの参考として活かせるのでは。

参加者（菅氏）

- ・今回の造成の考え方の資料は一般論であるので現時点での異論はない。
- ・アンケートについては、匿名にするかどうかや、質問に対して具体的なイメージができるような条件設定としていってはどうか。

事務局

- ・今回は第1回目の意向調査であることから概ねの意向等を把握するために行った。次回以降は、回答方法等も検討した上で細やかな意向調査が出来ればと考えている。

事務局

次回、第3回検討会を2月27日（木）午後2時から開催する旨、また、本日配布した資料を、この後生駒市ホームページにて公開する旨の発言

座長

第2回検討会を閉会する旨の発言

以上